



TITLE:

京大上海センターニュースレター 第20号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第20号. 京大上海センターニュースレター 2004, 20

ISSUE DATE:

2004-08-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/26336>

RIGHT:

京大上海センターニュースレター

第 20 号 2004 年 9 月 5 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○ 釜山国立大学「中小企業インキュベータ」訪問記

+++++

釜山国立大学校「中小企業インキュベータ」訪問記

8 月 10 日～17 日に、釜山（国立）大学校を訪問した。主たる目的は、Choi, Jong-Seo 教授との共同研究（日本の証券市場の情報効率性に関する実証研究）の打ち合わせであって、韓国に関する研究ではない。しかし、11 日に釜山大学の「中小企業インキュベータ」（Small & Medium Business Incubator）を訪問して、大学発のベンチャー企業の状況について聞き取り調査を行ったので、その成果の一部を述べたい。

韓国では、1997 年の金融恐慌からの回復期において、IT 産業を中心としてベンチャー・ビジネスのブームが起こったが、様々な理由から、2000 年以降急速に衰退した。

大学発ベンチャーは、ベンチャー・ビジネス一般の盛衰と軌を一にしたように考えられているが、大学発ベンチャーにはベンチャー・ブームの収束後も多くの成功例があり、必ずしも衰退しているとは言えないという。一般に、大学発ベンチャーの失敗の原因として、「マーケット・イン」（市場の需要を調査して大学の持つ技術をビジネス化する方法）の欠如が指摘されている。この「マーケット・イン」の欠如に関しては次の通りである。韓国の大学発ベンチャーには、①大学の研究者主導のタイプ（約 20%）と②中小企業主導のタイプ（約 80%）があり、前者では、過去において確かに市場の需要に関する調査が欠落しており、それが原因となって失敗する例が多かった。しかし、近年では、企業と研究者とが「市場の需要」と「開発技術」を「技術移転センター」に持ち寄って「お見合い方式」（徳賀による命名）でビジネス化を決定しているので、問題は少なくなっている。また、この「お見合い方式」に関心を持つ研究者と基礎研究に集中している研究者の棲み分けがうまくなされているので、ビジネス側の需要によって研究が歪められる心配（基礎研究の衰退等）も少ないという。

また、大学で開発された新しい技術をどのように価値評価してビジネス化するか、という問題に関しても解決の道がある程度整備されている。中央政府の「技術保証基金」や「産業技術評価機構」が様々な価値評価モデルを使って評価を行い、それを基にして、大学の研究者と企業とが交渉によってその価格を決定する。これまでのところ、ほとんど問題は発生していないという。日本でも経済産業省が技術評価の標準化を試みているが、今のところ包括的なものでも網羅的なものでもない。

大学発ベンチャーの在り方に関しては、韓国の大学から学ぶべきところは大きいようにで

ある。
(徳賀芳弘)